

## 鹿児島県小学生大会男子適用規則（2022年度版）

### I. 採点の基本方針

1. 技の難度にとらわれることなく演技実施を重視した評価をする。
2. 演技が美しくのびのびと正しく行われているか、その演技実施の習熟度を評価する。
3. 演技の良い部分に対しては、積極的に加点する。

### II. 演技の採点

#### 第1条 演技の原則

1. 演技内容は選手の能力に相応していなければならない。
2. 演技は理にかなったやり方で、美しくのびのびと実施されなければならない。

#### 第2条 得点の構成および価値部分の要求

1. ゆか、円馬、鉄棒の演技は、次の配点により構成される。

a) 価値部分	3.00
b) 演技実施	6.00
c) 加点	1.00
可能な最高得点	10.00

2. 価値部分の要求

- ・価値部分で最高点を得るために、跳馬以外の種目において次の要求を満たさなければならない。

6つの価値部分（1つの価値部分につき  $0.50 \times 6$  部分 = 3.00）

- ・現行の採点規則の難度表に記載されていない技も価値部分として認める。
- ・難度表に記載されていない技の例  
ゆか：ロンダート、前転、後転、開脚前転・後転等  
鉄棒：逆上がり、足かけ上がり、懸垂振り出し等

#### 第3条 演技の構成要素

1. 価値部分と繰り返しの認定

- ・ゆか、鉄棒において同一技は2回（1回の繰り返し）まで価値部分として認める。
- ・同一技が3回以上実施された場合は、3回目からは価値部分として認定しない。繰り返しによる減点はしないが、実施減点はあり得る。同一技が3回以上連続された場合も同様とする。
- ・難度表の同一番号の技であっても、姿勢などが異なるものは別の技とする。

2. 難度の制限を設けない。

3. 実施される価値部分は、以下の要素を考慮する。ただし、要素不足に対する減点はしない。

a) ゆか

- ・倒立、バランス技、柔軟性を表現する技、回転系の技
- ・演技時間：75 秒以内（65 秒と 75 秒に音で合図をする、時間の超過に対する減点はしない）
- ・ラインオーバーに対する減点はしない

b) 円馬

- ・閉脚の両脚旋回を主体とし、開脚旋回など円馬上で実施可能な技
- ・円馬においては同一技の繰り返し制限を適用しない。例えば、両脚旋回 6 回以上連続もすべて価値部分として認める。

c) 鉄棒

- ・懸垂振動技、鉄棒に近い技、終末技

#### 第4条 演技実施（欠点と減点）

小欠点 0.1
中欠点 0.2
大欠点（落下、転倒） 0.3

- ・鉄棒、段違い平行棒（単バー）において構成上必要な停止・中間振動は、それが正しい技捌きで美しい姿勢により実施された場合は減点の対象とはしない。

#### 第5条 加点

優れた実施に対して 1.00 まで加点を与えることができる。

- 様々な要素の美しい姿勢や表現に対して
  - ・つま先、膝、腕や頭の保ち方、体線、つま先立ち等
- 雄大性のある実施に対して
- のびのびとした勢いのある実施に対して
- 着地が止まることに対して

#### 第6条 跳馬の採点

- すべてのとび方の基礎点を 9.50 とする。
- 1 演技とする。（2 助走まで）
- 加点

優れた実施に対して 0.50 まで加点を与えることができる。

- 美しい姿勢の実施に対して
- スピード感のある実施に対して
- 突き放しのある雄大な跳越に対して
- 着地が止まることに対して

### Ⅲ. 補 足

1. この適用規則に記述されていない事項に関しては、現行の採点規則（日本体操協会）に準ずる。
2. 補助および補助マットについて
  - ・ 事故防止と選手の精神的援助のため、ゆかを除く種目において2名までの補助者が立つことが許される。また、ソフトマットの使用も許される。しかしながら、第1条自由演技の原則1「演技内容は選手の能力に相応していなければならない」は厳守しなければならない。
  - ・ 鉄棒においてマットを重ねることによって高さを調整することを認める。マットを重ねることに対する減点はしない。
3. 禁止技について
  - ・ 宙返り転の技（後ろとびひねりからの技を含む）
  - ・ 後方2回宙返りにひねりが加わった技
  - ・ 前方2回宙返り（2回宙返りにひねりが加わった技）
  - ・ 後方および前方3回宙返り
4. 器械寸度（高さは床面から）
  - ゆ か：ゆか 12m 四方
  - 円 馬：高さ 60cm
  - 跳 馬：高さ 1m10 ～ 1m25cm（選手に応じて変更して良い）
  - 鉄 棒：高さ 2m60cm